

命日

わたしの空白に訪れる

あなたの声が

わたしの声に重なり

その言葉の響きに

戸惑い、恐れ、口をつぐむ

だが、どこか懐かしい

この時を迎えるのに

五度目の七月四日を

待たねばならなかった

中野勝清